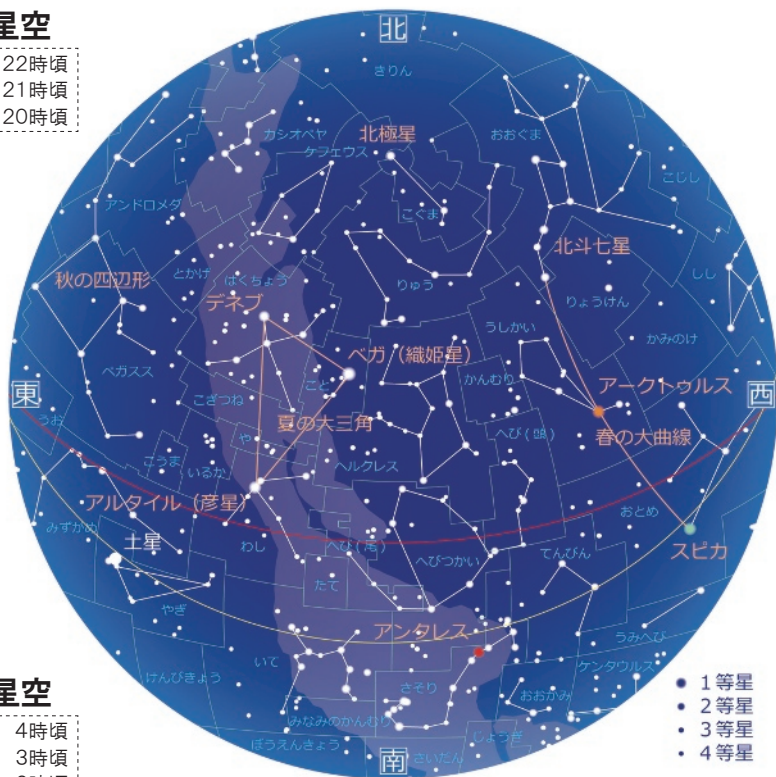


星空ガイド 7月16日～8月15日

よいの星空

7月16日22時頃
8月1日21時頃
15日20時頃



あけの星空

7月16日 4時頃
8月1日 3時頃
15日 2時頃



【太陽と月の出入り(大阪)】

月	日	曜	日の出	日の入	月の出	月の入	月齢
7	16	土	4:56	19:11	21:31	7:19	17.0
	21	木	4:59	19:08	23:55	12:46	22.0
	26	火	5:03	19:05	2:23	17:34	27.0
8	1	月	5:07	19:00	8:04	21:12	3.4
	6	土	5:11	18:56	13:17	23:40	8.4
	11	木	5:15	18:51	18:41	3:36	13.4
	15	月	5:18	18:46	20:59	8:26	17.4

※惑星は2022年8月1日の位置です。

低空の火星食

7月21日の深夜から22日の未明にかけて、火星食が起こります。火星食とは、月が火星を隠す現象です。大阪での7月21日の月の出は23:55ですが、この時すでに火星は月に隠されていて見えない状態になっています。その後、日付が変わって22日0:15(大阪での時刻)に月の陰から火星が現れます。ただし、この時大阪での月の高度は約3°と低いため、東の見晴らしがよい場所でなければ、観察は難しいです。また、月の出の時刻や火星が月の陰から現れる時刻は、観察を行う場所によって異なりますので、大阪市から数十km以上離れた場所で観察する場合は、その場所ごとの現象の予報を手に入れた方が良いでしょう。

この頃の火星は0等級まで明るくなっていますし、月の暗い側(欠けている側)から現れますので、よく晴れていれば、望遠鏡などの機材が無くても、肉眼で月の縁から火星が現れる様子を見ることができるでしょう。また、火星が月の陰から現れた後、明け方に向けて、じわじわと火星と月の距離が離れていく様子を観察すると、月が地球の周りを回っていることを実感できるでしょう。

ペルセウス座流星群が極大

8月13日にペルセウス座流星群が極大となります。今年は極大の時刻が日本で昼間の時間になりますので、一番の注目は13日の明け方(2時~3時頃)となります。

ペルセウス座流星群は年数ある流星群の中でも屈指の活発な流星群です。天の川が見えるほど星が良く見える環境であれば、1時間当たり50個以上もの流星を見ることができる可能性がある流星群ですが、今年は満月に近い月が空を明るく照らしていますので、星が良く見える場所へわざわざ出かけたとしても、都会の空で観察した場合と比べてどれほど多くの流れ星を見られるか疑問です。安全で見晴らしの良い場所で明け方の時間帯の空を眺めてみてください。よく晴れていれば、都市部でも1時間当たり5個~10個くらいの流れ星を見つけられるでしょう。

飯山 青海(科学館学芸員)

[こよみと天文現象]

月	日	曜	主な天文現象など
7	17	日	水星が外合
	19	火	明け方の南の空で、月と木星が約5°離れて並ぶ
	20	水	●下弦(23時)
	22	金	火星食(上記記事参照)
	23	土	大暑(太陽黄経120°)
	29	金	●新月(3時)
	30	土	みずがめ座δ流星群が極大の頃
8	2	火	明け方、火星と天王星が約1.3°まで接近

月	日	曜	主な天文現象など
8	4	木	旧七夕
	5	金	●上弦(20時)
	7	日	立秋(太陽黄経135°)
	9	火	くじら座のミラが極大の頃
	12	金	○満月(11時)
	13	土	ペルセウス座流星群が極大(10時)
	15	月	土星が衝/夜、東の空で月と木星が約3°離れて並ぶ